

第34課 準備のための聖書日課

11月14日(月) ネヘミヤ9：1－6 罪の告白と賛美

1 その月の二十四日に、イスラエルの人々は集まって断食し、粗布をまとい、土をその身に振りかけた。

2 イスラエルの血筋の者は異民族との関係を一切断ち、進み出て、自分たちの罪科と先祖の罪惡を告白した。3 彼らは自分の立場に立ち、その日の四分の一の時間は、彼らの神、主の律法の書を朗読して過ごし、他の四分の一の時間は、彼らの神、主の前に向かって罪を告白し、ひれ伏していた。

4 イエシュア、バニ、カドミエル、シェバンヤ、ブンニ、シェレブヤ、バニ、ケナニは、レビ人のための台に立ち、神なる主に向かって大きな叫び声をあげた。5 レビ人イエシュア、カドミエル、バニ、ハシャブネヤ、シェレブヤ、ホディヤ、シェバンヤ、ペタフヤは言った。

「立って、あなたたちの神、主を賛美せよ。

とこしえより、とこしえにいたるまで

栄光ある御名が賛美されますように。

いかなる賛美も称賛も及ばないその御名が。

6 あなたのみが主。

天とその高き極みを

そのすべての軍勢を

地とその上にあるすべてのものを

海とその中にあるすべてのものを

あなたは創造された。

あなたは万物に命をお与えになる方。

天の軍勢はあなたを伏し拝む。

イスラエルの民は城壁再建が叶った時に、主の律法の書を朗読し、断食をし、それぞれの立場で徹底的に悔い改めをし、主の前に平伏していました。そして「天の軍勢はあなたをふし拝む。」と賛美を捧げました。代表者だけでなく各々が悔い改めて賛美しました。私たちもデボーションを通して、事あるごとに悔い改めて、今与えられているもの全てに感謝し、日々共にいてくださる万軍の主にかからの賛美をお捧げしたいです。

11月15日(火) 詩編48：1－15 地の果てに及ぶ賛美

1 【歌。賛歌。コラの子の詩。】

2 大いなる主、限りなく賛美される主。

わたしたちの神の都にある聖なる山は

3 高く美しく、全地の喜び。

北の果ての山、それはシオンの山、力ある王の都。
4 その城郭に、砦の塔に、神は御自らを示される。
5 見よ、王たちは時を定め、共に進んで来た。
6 彼らは見て、ひるみ、恐怖に陥って逃げ去った。
7 そのとき彼らを捕えたおののきは
産みの苦しみをする女のもだえ
8 東風に碎かれるタルシシュの船。
9 聞いていたことをそのまま、わたしたちは見た
万軍の主の都、わたしたちの神の都で。
神はこの都をどこしえに固く立てられる。〔セラ
10 神よ、神殿にあってわたしたちは
あなたの慈しみを思い描く。
11 神よ、賛美は御名と共に地の果てに及ぶ。
右の御手には正しさが溢れている。
12 あなたの裁きのゆえに
シオンの山は喜び祝い
ユダのおとめらは喜び躍る。
13 シオンの周りをひと巡りして見よ。
塔の数をかぞえ
14 城壁に心を向け、城郭に分け入って見よ。
後の代に語り伝えよ
15 この神は世々限りなくわたしたちの神
死を越えて、わたしたちを導いて行かれる、と。

詩人は過去に神がシオン(後にダビデの町と呼ばれる)を守られたことと、特にヒゼキヤ王時代のセンナケリブ来襲からの救助などを考えていたようです。

エルサレムの防御はお城の設備では無く神ご自身の御業による。とその素晴らしさを思い巡らし賛美しています。そして神の慈しみは過去だけでは無く、現在、未来、死の後へと世々限りなく続くことを子々孫々伝えるように言われます。今もその慈しみの中で私たちは生かされていることを感謝いたします。

11月16日(水) 詩編122:1-9 城壁のうちの平和

1 【都に上る歌。ダビデの詩。】

主の家に行こう、と人々が言ったとき
わたしはうれしかった。
2 エルサレムよ、あなたの城門の中に

わたしたちの足は立っている。

3エルサレム、都として建てられた町。

そこに、すべては結び合い

4そこに、すべての部族、主の部族は上って来る。

主の御名に感謝をささげるのはイスラエルの定め。

5そこにこそ、裁きの王座が

ダビデの家の王座が据えられている。

6エルサレムの平和を求めよう。

「あなたを愛する人々に平安があるように。

7あなたの城壁のうちに平和があるように。

あなたの城郭のうちに平安があるように。」

8わたしは言おう、わたしの兄弟、友のために。

「あなたのうちに平和があるように。」

9わたしは願おう

わたしたちの神、主の家のために。

「あなたに幸いがあるように。」

待ちに待った神殿・城壁の完成です。

イスラエル巡礼から帰宅した詩人が楽しい恵みに満ちた旅の思い出を歌ったのか、巡礼礼拝しつつ歌ったのでしょうか。最後には「わたしの兄弟、友のために。『あなたのうちに平和があるように』わたしたちの神、主の家のために。『あなたに幸いがあるように』」(8、9節)と祈りの決心をします。

礼拝堂での礼拝を許された私たちも、感謝を持って主を愛する兄弟姉妹、友の平和・平安、大切な教会の幸い・繁栄を心を新たにお祈りいたしましょう。

11月17日(木) 詩編148：1-14 こそつて、主を賛美

1ハレルヤ。

天において 主を賛美せよ。

高い天で 主を賛美せよ。

2御使いらよ、こそつて 主を賛美せよ。

主の万軍よ、こそつて 主を賛美せよ。

3日よ、月よ 主を賛美せよ。

輝く星よ 主を賛美せよ。

4天の天よ 天の上にある水よ 主を賛美せよ。

5主の御名を賛美せよ。

主は命じられ、すべてのものは創造された。

6 主はそれらを世々限りなく立て

越ええない掟を与えられた。

7 地において

主を賛美せよ。

海に住む竜よ、深淵よ

8 火よ、雹よ、雪よ、霧よ

御言葉を成し遂げる嵐よ

9 山々よ、すべての丘よ

実を結ぶ木よ、杉の林よ

10 野の獣よ、すべての家畜よ

地を這うものよ、翼ある鳥よ

11 地上の王よ、諸国の民よ

君主よ、地上の支配者よ

12 若者よ、おとめよ

老人よ、幼子よ。

13 主の御名を賛美せよ。

主の御名はひとり高く

威光は天地に満ちている。

14 主は御自分の民の角を高く上げてくださる。

それは主の慈しみに生きるすべての人の栄誉。

主に近くある民、イスラエルの子らよ。

ハレルヤ。

日本をはじめ色々な国々で太陽や月を神として、ある場所では巨木や形の変った岩も神として祀っています。しかし、ここで詩人は天に向かって日よ、月よ、輝く星よ、主を賛美せよ。と主への賛美を勧誘します。又海、地上のあらゆる現象・全ての生き物・人間に向かって、主への賛美を薦めます。造られた物では無く、それら全ての創造主と共に褒め讃えるようにとの薦めに、私はいつもここを読むと喜びと力が湧いてきます。皆さまと共に全ての源の主を賛美して参りたいです。

11月18日(金) ルカ24：36－53 絶えず神をほめたたえて

36 こういうことを話していると、イエス御自身が彼らの真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。37 彼らは恐れおののき、亡霊を見ているのだと思った。38 そこで、イエスは言われた。「なぜ、うろたえているのか。どうして心に疑いを起こすのか。39 わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしだ。触ってよく見なさい。亡霊には肉も骨もないが、あなたがたに見えらるとおり、わたしにはそれがある。」40 こう言って、イエスは手と足をお見せになった。41 彼ら

が喜びのあまりまだ信じられず、不思議がっているので、イエスは、「ここに何か食べ物があるか」と言われた。42 そこで、焼いた魚を一切れ差し出すと、43 イエスはそれを取って、彼らの前で食べられた。

44 イエスは言われた。「わたしについてモーセの律法と預言者の書と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現する。これこそ、まだあなたがたと一緒にいたころ、言っておいたことである。」45 そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて、46 言われた。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。47 また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。エルサレムから始めて、48 あなたがたはこれらのことの証人となる。49 わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。」

50 イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて祝福された。51 そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。52 彼らはイエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに帰り、53 絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた。

先日まで共に居られたイエス様であると分からない弟子たちに怒るでもなく、丁寧にご自身を現して下さり、分かる様に至れり尽せり聖書の言葉も説明下さいました。そして「これらのことの証人となる。」と言われました。使命を受けた彼らは「大喜びでエルサレムに帰り、絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた。」今もイエス様は私たちに生きる意味を日々語りかけて下さっておられることを感謝いたします。主からお力をいただいてそのお導きに従って歩めますように、アーメン。

11月19日(土) ヨハネの黙示録 22 : 1 - 5 新しいエルサレムで

1 天使はまた、神と小羊の玉座から流れ出て、水晶のように輝く命の水の川をわたしに見せた。2 川は、都の大通りの中央を流れ、その両岸には命の木があって、年に十二回実を結び、毎月実をみのらせる。そして、その木の葉は諸国の民の病を治す。3 もはや、呪われるものは何一つない。神と小羊の玉座が都にあって、神の僕たちは神を礼拝し、4 御顔を仰ぎ見る。彼らの額には、神の名が記されている。5 もはや、夜はなく、ともし火の光も太陽の光も要らない。神である主が僕たちを照らし、彼らは世々限りなく統治するからである。

人間はアダムとエバが罪を犯して以来エデンの園から追放されました。人々は労苦して日々の糧を得る様になり、任された物を正しく納める事もできませんでした。罪の身代わりとして来られた救い主イエス様を信じる者は、新しいエルサレムに入れるとあり、そこは神さま(イエス様)の御許から流れる命の水の川があり、両岸に命の木の実は毎月実るとあります。エデンの園より素敵で礼拝を捧げ神様を仰ぎ見て、今度こそ全ての物を正しく納めなさいと言われているようです。

11月20日(日) ネヘミヤ12:27-43 (参照12:44-47) みんなで賛美

27 エルサレムの城壁の奉献に際して、人々は、あらゆる所からレビ人を求め、エルサレムに來させて、感謝の祈りと、シンバルや豎琴や琴に合わせた歌をもって、奉献式と祝典を行おうとした。28-29 詠唱者たちは、それぞれエルサレム周辺の盆地、ネトファ人の村々、ベト・ギルガルおよびゲバヤアズマベトの田舎などから集まって來た。詠唱者たちは、エルサレムの周辺に村を作って住んでいた。

30 祭司とレビ人は身を清めたうえで、民と城門と城壁を清めた。

31 わたしは、ユダの長たちを城壁に上らせ、二つの大きな合唱隊を編成した。一隊は城壁の上を右へ、糞の門に向かって進んだ。32 その後ろに、ホシャヤおよびユダの長たちの半数が続き、33 またアザルヤ、エズラ、メシュラム、34 ユダ、ビンヤミン、シェマヤ、イルメヤ、35 ラッパを持った祭司たち、次にゼカルヤが続いた。その父はヨナタン、祖父はシェマヤ、更にマタンヤ、ミカヤ、ザクル、アサフとさかのぼる。36 更に彼の仲間シェマヤ、アザルエル、ミラライ、ギラライ、マアイ、ネタンエル、ユダ、ハナニが、神の人ダビデの楽器を持って行進に続いた。書記官エズラは彼らの前を行った。37 泉の門に來ると、彼らはその前にあるダビデの町への上り坂を上がり、城壁に上って、ダビデの家の上を過ぎて東の水の門に來た。38 他の一隊は左に向かった。わたしは他の半数の人々と共に彼らに続いた。一行は城壁の上を行き、炉の塔から広壁、39 エフライムの門から古い門、魚の門、ハナンエルの塔、ハンメアの塔から羊の門まで進み、警備の門で止まった。

40 こうして二隊は、神殿の中に立ち、わたしも役人の半数と共にそこにいた。41 ラッパを手にした祭司はエルヤキム、マアセヤ、ミンヤミン、ミカヤ、エルヨエナイ、ゼカルヤ、ハナンヤ。42 更にマアセヤ、シェマヤ、エルアザル、ウジ、ヨハナン、マルキヤ、エラム、エゼルは詠唱者として歌い、イズラフヤが彼らの監督であった。

43 その日、人々は大いなるいけにえを屠り、喜び祝った。神は大いなる喜びをお与えになり、女も子供も共に喜び祝った。エルサレムの喜びの声は遠くまで響いた。

いろいろな場所からレビ人詠唱者が集められ、大合唱隊を二つ作って、音楽隊とエズラを含む一隊は城壁の上を右方向へ、同じようなもう一隊は城壁の上を左方向に進みネヘミヤもいました。神殿の中で合流します。大きな聖歌隊が二隊、オーケストラが二組一緒に集まり主を高らかに賛美する様子を想像しただけでゾクゾクします。コロナ禍守れなかった会堂での礼拝が守れるようになった私たちも、心を込めて大合唱隊のように賛美をお捧げ出来たら幸いです。

(担当 : K.W.)